

## 平成 25 年度ジャーナル編集長会議事録（第七回）

公益社団法人日本地球惑星科学連合

### 1. 開催日時 平成 25 年 10 月 27 日（水）

午後 17 時 00 分から 19 時 00 分

### 2. 開催場所 TKP 仙台カンファレンスセンター 3 階 ミーティングルーム 3A

（980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 2-3 ソララガーデン・オフィス）

### 3. 議長 編集長 川幡穂高

### 4. 出席者

総編集委員長 井龍康文

編集長 小原一成

事務局 谷上美穂子 浅田智世 長谷川みどり 杉村洋平

### 5. 議事

#### (1) Springer 社投稿システム変更の件

井龍委員長より，Springer Open が利用している投稿システムが変更になるという通知を Springer 社から受けた旨報告があった。変更は 2014 年末予定である。

Springer 社に，新しい投稿システム（Editorial Manager; <http://www.editorialmanager.jp/>）の講習会の開催を要請すること，編集作業者の階層や権限など利便性の調整を要請すること，および課金システムなど他のシステムに変更があるかどうかの確認を要請することを決めた。

#### (2) 編集業務手順，事前確認の件

- ・投稿があった際，投稿者の属性，投稿料等の情報に間違いがないことを確認の上で編集工程へ進むこととした。
- ・2013，2014，2015 年については，投稿時に有効な JpGU 会員資格を有するかをチェックした後，査読プロセスに進むこととする（特に，連合の会員か否か，また会費の滞納の有無を確認する）。
- ・投稿時の身分が適用されるため，投稿時に入会を希望する著者には投稿よりも前に入会するよう案内する。その旨をホームページ等で案内する。  
（あくまでも「JpGU 会員料金の適用は，投稿時に JpGU 会員であることが必須」である。但し，細かい規定については，HP などには書かない。というのは，投稿時に有効であつ

でも、受理時に退会して無効である場合など、様々なケースが考えられるが、Impact factor がつくまでの期間は、あまり投稿数もないかと考えられるのと、どのようなトラブルがあるのか、その間に蓄積するためである.)

- コンビナー推薦の優秀論文の投稿があった際、元の大会発表から内容や著者が大幅に改変されていないことも確認する。

(背景: 今回投稿寸前の論文については、タイトルから推定できる内容と投稿の内容がかなり異なるものが見受けられる.)

### (3) 巻頭言の件

初年は巻頭言は、JGL の時と同様に、津田敏隆連合会長とジャーナル企画運営委員会川幡が準備する。次年からは編集長が担当する。

### (4) ホームページ等の件

SpringerOpen 上の投稿ホームページから連合のジャーナル紹介ホームページへのリンクの作成を Springer 社に依頼する。

投稿画面の「Type of article」の並び順を、Review が一番目、Research が二番目になるように変更するよう Springer 社に依頼する。

### (5) 編集委員会全体会議の件

編集委員会全体会議について審議した。1月25日(土)を開催予定日とする。海外の編集委員も含め、全体で50名程度の参加者を見込む。内容としては、ジャーナルの経緯や方針の説明、予算の説明、また Springer 社米澤氏を招いて Springer 社の戦略の説明、COPE (Committee on publication ethics) の委員を招いて出版倫理に関する説明、およびジャーナルの戦略や投稿募集に関するフリーディスカッション等を検討中である。

(→日時: 1/25 (土) 10:00-15:00、懇親会 15:00- 場所: 品川 TKP カンファレンスセンター (品川駅西口) <http://tkpshinagawa.net/> となった.)

### (6) Special Volume

Special Volume について、具体的な問い合わせが幾つかあるので、議論した。日本の国際誌で従来出版されてきたような「特集号」は実施しない。従来型とは、guest editor を招いて編集、special volume のトピックスをカバーするため、投稿された論文をなるべく掲載する、という事項を含む。

「Progress in Earth and Planetary Science」は、Open access e-journal なので、後で special topics として扱うことは可能である。AGU などで行われている、「Call for paper」などの形で実施していくのは、やぶさかでないとの見解に到達した。さらに、この概念を判り易い名前で記すとよいとの意見がだされた。

例えば、「SPEPS = SPecial call Excellent Papers for hot topicS (大文字のみをとると SPEPS) =Special PEPS」.

以上